

ことしも生きて
さくらを見ています

ひとは生涯に

何回ぐらいさくらをみるのかしら

ものごころつくのが十歳ぐらいなら
どんなに多くても七十回ぐらい

三十回 四十回のひともざら
なんという少なさだろう

もっともっと多く見るような気がするのは
祖先の視覚も

まぎれこみ重なりあい霞立つせいでしよう

あでやかとも妖しとも不気味とも
捉えかねる花のいろ

さくらふぶきの下を ふららと歩けば

一瞬

名僧のごとくにわかるのです

死こそ常態

生はいとしき屢気楼と